

2017. 12. 25

---

プレスリリース

---

## 「内外の化繊工業の動向」

2017年 第3四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。  
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。  
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

## 概 要 (2017年第3四半期)

2017年7-9月のわが国の景気は、個人消費や住宅投資が一服したもののインバウンド消費を含む輸出が伸び、緩やかな上昇基調を辿った。

このような中、化繊景況は衣料用が全般低調だったが、産業資材用はエアバッグ向けなど自動車関連が堅調に推移した。化繊生産は23.3万トン・前年同期比0.2%増となった。

### 国 内

- 1) 衣料用途は、婦人服が消費不振の影響で低調。ユニフォーム・ワーキング用は堅調に推移した。保温肌着用は大手SPA向けが順調だったが、GMS（総合スーパー）向けは不振。中東民族衣装向け輸出は原油価格の低位安定による現地の消費減退で数量減。インテリア用途は、カーペットが足元は落ち着いているが今後オフィスビル・インバウンド向けホテルの完工に期待。カーテンはコントラクト向けが順調だが、ホームユース用が盛り上りに欠けた。衛材用途は、紙おむつの中国向け製品輸出が好調。生活資材用途は、コスメ・スキンケア、制汗シート用が堅調だったが、貼布剤用は苦戦が続いた。自動車関連用途は、エアバッグ用が好調に推移、タイヤコード用はポリエステル製の織物・強力糸の高水準の輸入が続いた。カーシート・シートベルト用は自動車の生産増で順調だった。土木資材用途は、公共投資向けが低調。建築資材用途は、一服気味だが都市再開発事業の活発化に期待している。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年同期比（以下同じ）1.0%減、化繊 2.4%減、紡績 5.1%減。在庫指数（9月末）は、繊維工業全体が前年同月比（以下同じ）6.6%減、化繊 8.8%減、紡績 2.4%減。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで19.7億ドル・前年同期比（以下同じ）0.4%減、円ベースでは2,188.7億円・7.9%増。形態別（ドルベース）は、繊維原料 2.4億ドル・0.9%増、糸類 2.8億ドル・2.8%増、織物類 5.9億ドル・2.1%減、二次製品他 8.6億ドル・0.6%減。仕向地別（ドルベース）では、全体の31.0%を占めた中国が3.6%増の6.1億ドル、韓国（14.6%減）、香港（10.4%減）、台湾（4.0%減）、アセアン地域はベトナム（0.1%増）、タイ（3.5%減）、インドネシア（6.5%増）・マレーシア（15.0%減）、それ以外では、欧州（1.3%減）、米州（13.3%増）西アジア（3.2%減）となった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで101.8億ドル・前年同期比（以下同じ）4.9%減、一方円ベースでは1兆1,287.7億円・3.1%増。形態別（ドルベース）は、繊維原料 1.5億ドル・10.3%増、糸類 3.0億ドル・2.2%減、織物 3.3億ドル・1.0%減、二次製品他 93.9億ドル・5.4%減。仕出地別（ドルベース）では、全体の61.1%を占めた中国が6.6%減の62.2億ドル、韓国（1.2%増）、台湾（2.5%増）、アセアン地域は、ベトナム（1.8%減）、イ

インドネシア (0.2%増)、タイ (2.8%増)、マレーシア (5.8%増)、それ以外では、イタリア (5.5%減)、米国 (1.4%減) となった。

### 繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2015.7-9	2016.7-9	2017.7-9	2016年比(%)	2015年比(%)
輸出	千ドル	2,019,257	1,979,885	1,971,367	-0.4	-2.4
計	百万円	246,888	202,835	218,872	7.9	-11.3
繊維原料	千ドル	419,520	237,429	239,478	0.9	-42.9
糸類	〃	265,386	271,849	279,572	2.8	5.3
織物類	〃	597,717	602,042	589,126	-2.1	-1.4
二次製品他	〃	736,633	868,567	863,191	-0.6	17.2
輸入	千ドル	10,599,015	10,706,129	10,179,064	-4.9	-4.0
計	百万円	1,293,941	1,094,951	1,128,767	3.1	-12.8
繊維原料	千ドル	149,425	140,368	154,860	10.3	3.6
糸類	〃	310,875	306,268	299,602	-2.2	-3.6
織物類	〃	330,128	335,557	332,302	-1.0	0.7
二次製品他	〃	9,808,587	9,923,935	9,392,300	-5.4	-4.2
(うち衣類)	〃	(8,394,378)	(8,469,681)	(7,924,978)	-6.4	-5.6
輸出レート	円/ドル	122.3	102.4	111.0	8.4	-9.2
輸入レート	円/ドル	122.1	102.3	110.9	8.4	-9.2

(出所) 財務省

5) 化繊生産は 23 万 2,862 トン・前年同期比 (以下同じ) 0.2%増、うちセルロース繊維 4 万 7,072 トン・16.3%増、合繊 18 万 5,790 トン・3.2%減となった。9 月末在庫は 9 万 947 トン・6.8%減、うちセルロース繊維 1 万 9,332 トン・40.5%増、合繊 7 万 1,615 トン・14.5%減であった。

化繊輸出 (繊維原料～二次製品) は 13.6 万トン・前年同期比 (以下同じ) 5.0%増。うち、繊維原料 5.3 万トン・2.0%増、糸類 3.1 万トン・8.5%増、織物類 (面積ベース) 1.44 億㎡・4.8%増、二次製品 2.9 万トン・8.4%増となった。品種別では、レーヨン S 19.4%増、ナイロン F 15.0%増、ポリエステル F 3.8%減、ポリエステル S 25.0%減、アクリル S 3.3%増、織物類 (面積ベース) はナイロン F 織物 1.5%増、ポリエステル F 織物 3.1%増、ポリエステル S 織物 7.0%増であった。

化繊輸入 (繊維原料～二次製品) は 43.6 万トン・2.5%減。うち、繊維原料 2.4 万トン・3.7%増、糸類 5.6 万トン・0.1%減、織物類 (面積ベース) は 1.44 億㎡・3.2%減、二次製品 32.4 万トン・4.0%減、うち衣類 16.6 万トン・9.5%減となった。品種別では、レーヨン S 4.3%減、ナイロン F は 14.8%減、ポリエステル F 4.5%増、ポリエステル S 12.0%増、ポリエステル紡績糸 4.6%増、織物類 (面積ベース) はポリエステル F 織物 8.1%減、ポリエステル S 織物 3.3%減であった。

## 化学繊維の主要指標

項目	単位	2015. 7-9	2016. 7-9	2017. 7-9	2016年比 (%)	2015年比 (%)
化繊生産	千トン	252.7	232.5	232.9	0.2	-7.8
セルロース	〃	44.3	40.5	47.1	16.3	6.4
合 織	〃	208.4	192.0	185.8	-3.2	-10.8
化繊在庫	〃	98.8	97.5	90.9	-6.8	-7.9
セルロース	〃	15.8	13.8	19.3	40.5	22.7
合 織	〃	83.0	83.8	71.6	-14.5	-13.7
化繊輸出	千トン	164.9	129.7	136.2	5.0	-17.4
	100万ドル	1,290.1	1,180.9	1,190.3	0.8	-7.7
	億円	1,577.1	1,209.8	1,321.5	9.2	-16.2
繊維原料	千トン	86.8	51.6	52.6	2.0	-39.4
糸 類	〃	29.0	28.9	31.3	8.5	7.8
織物類	百万㎡	147.4	137.0	143.6	4.8	-2.5
二次製品	千トン	24.9	26.4	28.6	8.4	14.8
化繊輸入	千トン	424.5	447.8	436.4	-2.5	2.8
	100万ドル	5,312.7	5,450.2	4,915.3	-9.8	-7.5
	億円	6,480.8	5,571.2	5,447.8	-2.2	-15.9
繊維原料	千トン	17.8	23.0	23.9	3.7	34.1
糸 類	〃	56.0	56.4	56.3	-0.1	0.6
織物類	百万㎡	151.0	148.4	143.7	-3.2	-4.9
二次製品他	千トン	319.5	337.4	324.0	-4.0	1.4
(うち衣類)	〃	(175.7)	(183.1)	(165.7)	-9.5	-5.7

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合織品種の動向は次の通り。

### <ポリエステルF>

2017年第3四半期のポリエステルフィラメントの生産は2万9,978トン・前年同期比4.0%減、9月末在庫は1万778トン・前年同月比0.1%増。

衣料：婦人服はファッション衣料分野で合織の機能（撥水・吸水速乾）や天然ライクが評価されてきたが消費不振が響いた。中東向け民族衣装「アバヤ」用の輸出は原油価格の低位安定による現地の消費減退で数量減。裏地はストレッチ、清涼など機能素材使いが堅調だが全般盛り上がりには欠けた。遊泳用水着は関東地区の長雨で店頭販売が不振だったため、来シーズン向けの出荷に影響が出そう。「ヨガ」用ニットは国内・輸出用ともに堅調。

非衣料：タイヤコード用は織物、強力糸の輸入共に高水準でタイヤコード向け国内ポリエステル繊維消費量の殆どが海外からの調達。カーシート・シートベルト用は自動車の生産増加で順調に推移。ゴム資材の需要は安定しており、北米向け自動車ブレーキホース用などの間接輸出も堅調。カーテンは家庭用が盛り上がりには欠けたが、

インバウンド用ホテルなどの増加でコントラクト需要は順調だった。土木関係は低調で推移、建築関係は足元が一服気味だが来年以降、都市再開発事業によるオフィスビル、ホテル建築が活発化して増量が期待できる。漁網は巻網用が安定しているが、刺し網が不振。

フィラメント輸出：4,009 トン・前年同期比 3.8%減、フィラメント輸入：3万4,326 トン・4.5%増。

### <ポリエステルS>

2017年第3四半期のポリエステルステーブルの生産は2万4,412 トン・前年同期比 14.7%減、9月末在庫は1万4,020 トン・前年同月比 33.7%減。

紡績：ユニフォーム・ワーキング向けは堅調に推移したが作り過ぎで、やや在庫が増加気味。中東民族衣装（トープ）用の輸出は原油価格の低位安定で現地の消費が冷え込み苦戦。帆布向けは自然災害の多発で備蓄用の荷動きがあった。

製綿：9月に入り低めの気温が続き荷動きが出てきた。寝装用原綿の輸入は中国からの再生品が多かったが、同国の環境規制強化でヴァージン化が進み輸入価格が上昇した。

不織布：（衛材）中国向け紙おむつ・生理用品の製品輸出が勢いを取り戻し好調。

（生活資材）対物関係はワイパー向けなどで差別化品が、対人関係は制汗シート、除菌ウェットが好調だったが貼布剤は不振が続いた。（車両資材）自動車軽量化の流れのなか、吸音材が堅調。（湿式不織布）RO膜の支持体向けは中国での家庭用浄水器の需要拡大を背景に好調。

ステーブル輸出：3,333 トン・前年同期比 25.0%減、ステーブル輸入：1万6,202 トン・12.0%増。

### <ナイロンF>

2017年第3四半期のナイロンフィラメントの生産は2万4,579 トン・前年同期比 1.7%増、9月末在庫は1万2,347 トン・前年同月比 8.8%減。

衣料：パンストはインバウンドの爆買いが終了したが、タイツは継続中。ハイテックニットの内国向けはトレンドを外れ低調、中国向け輸出も現地の低価格品との競合が激化。高密度織物について、北陸産地から18年シーズン向けの引き合いが増加し、機業場・染工場のスペース満杯が伝えられた。欧州向け輸出が暖冬による過剰在庫から抜け出し堅調。

非衣料：ラジアルタイヤ向けキャッププライ用はリプレイスタイヤの販売低調の影響が懸念された。オフロード車向けバイアスタイヤ用は建機用および中国の農機具タイヤ向けが堅調。高強力・高耐熱性ナイロン使いの航空機タイヤ用は安定。エアバッグは新興国での装着義務化、装着部位の拡大を受けて、エアバッグ用原糸輸出の増加が続いた。タイルカーペット用は足元が一服しているが今後オフィス、インバウンド向けホテルや大型商業施設の完工に合わせて需要増が期待できる。車両用

はオプションマット向けが堅調に推移。

フィラメント輸出：1万1,374トン・前年同期比15.0%増、フィラメント輸入：6,969トン・14.8%減。

### <アクリルS>

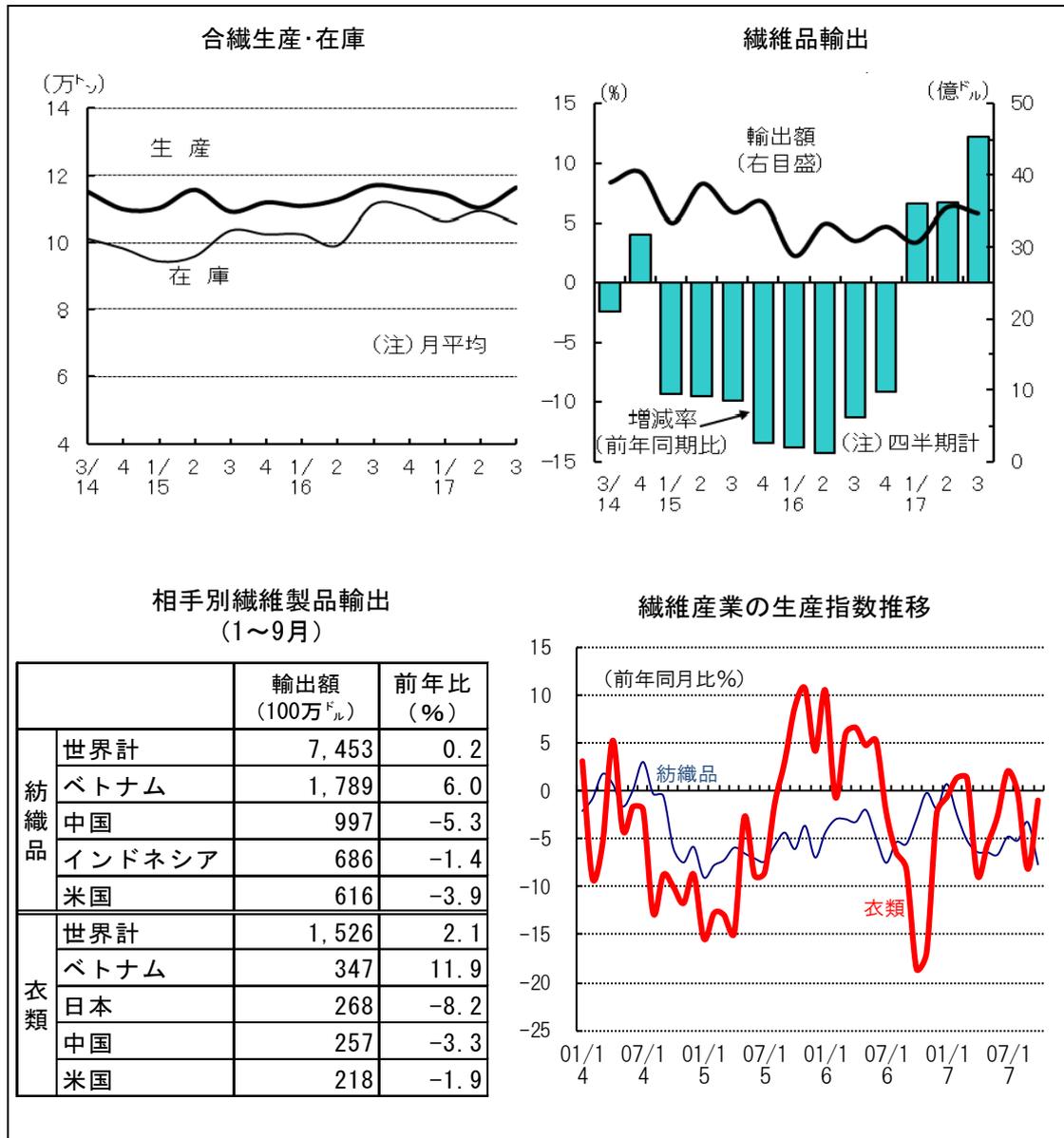
2017年第3四半期のアクリルステープルの生産は3万1,321トン・前年同期比5.5%減、9月末在庫は1万587トン・前年同月比14.4%減。

衣料用：保温肌着用のステープルの出荷は堅調、大手SPAの店頭販売は9月以降の冷え込みで順調に推移した。GMS（総合スーパー）のPB商品向けの不振が続く、消費者の購入先は大手SPAへの集中が一層進んだ。セーターは低位安定、国産アクリル使いはスクール関係と少量のブランド品が対象になっている。

建寝装用：毛布は長期低落傾向が続く、泉大津産地で唯一残っていた染工場が廃業し、産地の縮小が進む。

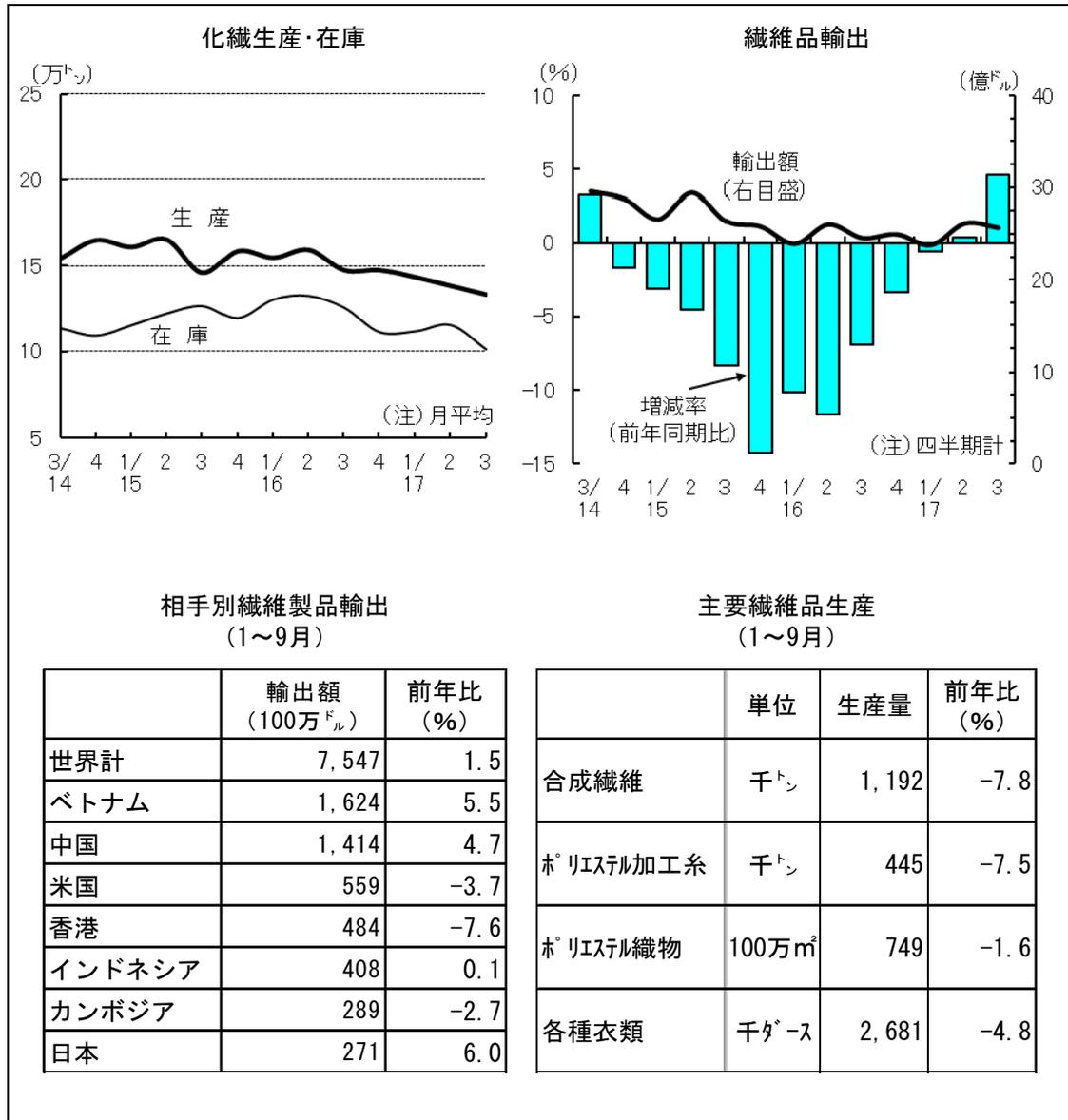
輸出：最大仕向地の中国は、1万4,000トン・前年同期比（以下同じ）34.8%増。欧米向けエコファーの再輸出用は、過剰在庫の解消や「動物愛護」の機運の高まりで需要が盛り上がり好調だった。一方中国内需用は不振、背景には「襟」部分にエコファーが使用されなくなったことや、アクリル代替としてポリエステル品質が急速に向上したことなどがある。また、セーターも従来アクリル使いのものでポリエステル化が進んだ。

1. 韓国



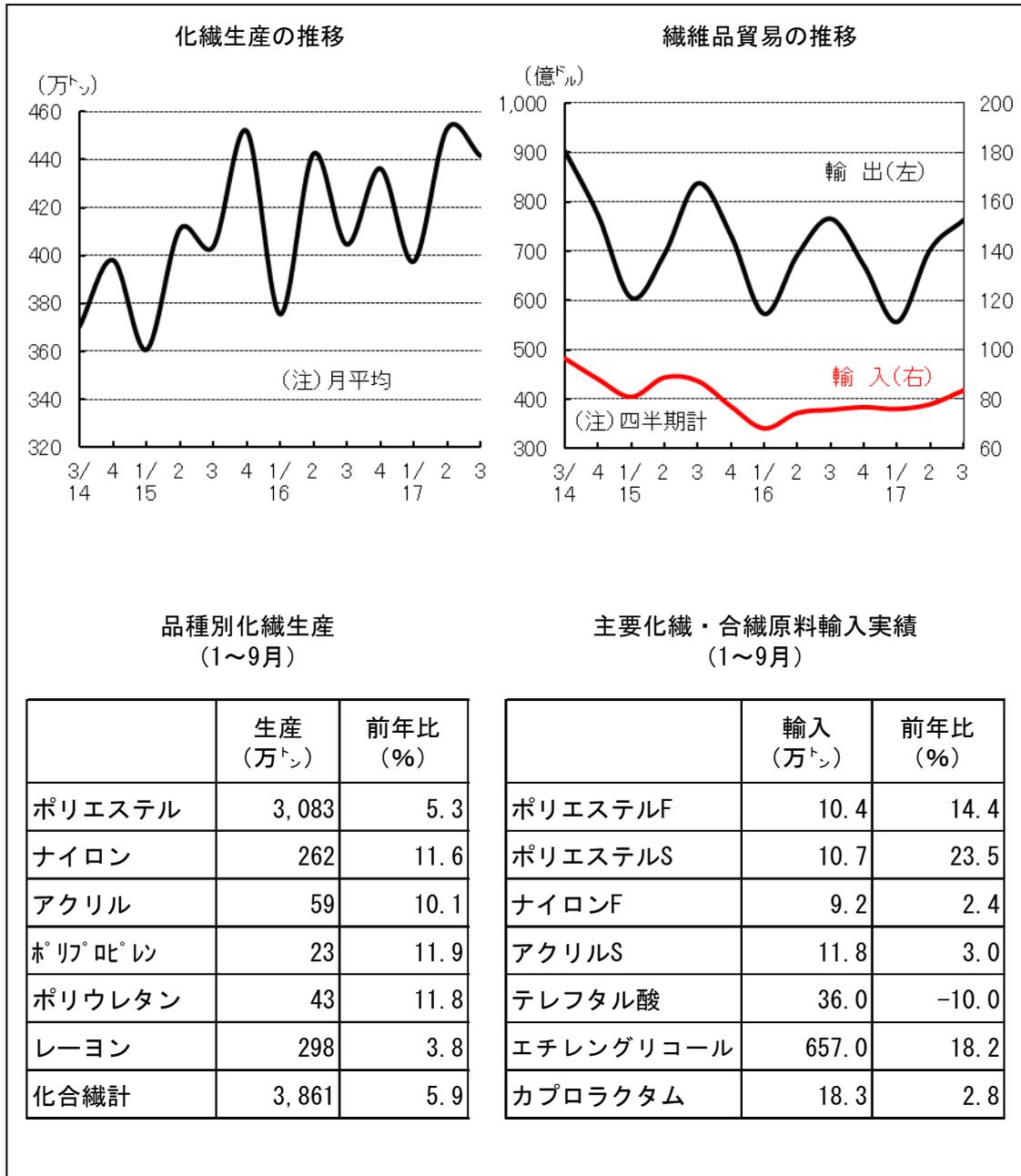
- ◆ 化繊生産は前期に続き減産、繊維品輸出は2017年に入り回復している。
- ◆ 第3四半期の合繊生産は前年同期比0.5%減の34.9万トとなった。主要合繊は、ナイロンFは同11.9%減、ポリエステルFは同3.9%減と減少したが、ポリエステルSは3.2%増、アクリルSは同18.7%増となった。期末在庫は同9.7%減であった。
- ◆ 第3四半期の繊維品輸出は前年同期比12.3%増の34.6億ドルとなった。1~9月の繊維製品輸出を相手別にみると、紡織品は最大のベトナム向けが同6.0%増となったが、中国向けは減少。衣類は、最大のベトナム向けが11.9%増と大幅に増加した。
- ◆ 2017年の繊維品の生産指数をみると、紡織産業はほぼ一貫して前年実績を下回っている。衣類産業は一進一退の状況が続いている。

## 2. 台 湾



- ◆化繊生産は4期連続の減産、繊維品輸出は前期に続き前年実績増となった。
- ◆第3四半期の化繊生産は前年同期比9.7%減の40.0万トンとなった。主要合繊では、主力のポリエステルFは同7.0%減、ポリエステルSは同7.3%減、アクリルSは同51.4%減となった。一方、ナイロンFは同1.3%増となった。
- ◆第3四半期の繊維品輸出は前年同期比4.6%増の25.7億ドルとなった。1～9月の繊維品輸出を相手別にみると、ベトナム向けは同5.5%増、中国向けは同4.7%増となったが、米国向け、香港向けは減少した。
- ◆1～9月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は前年同期比7.5%減、ポリエステル織物は同1.6%減、衣類は同4.8%減といずれも減少となった。

### 3. 中 国



- ◆ 化繊生産は増産が続く。繊維品輸出は一進一退が続いている。
- ◆ 第3四半期の化繊生産は前年同期比9.4%増の1,325万トとなった。1～9月の化繊生産は同5.9%増の3,083万ト。品種別には、ポリエステルは同5.3%増、ナイロンは同11.6%増、アクリルは同10.1%増、ポリウレタンは同11.8%増、レーヨンは同3.8%増となった。なお、1～9月の紡績糸生産、織物生産は1.7%増、9.0%増となった。
- ◆ 第3四半期の繊維品輸出は前年同期比0.4%減の763億ドル、前期に続き増加となった。一方、繊維品輸入は同10.4%増の84億ドルとなった。

- ◆1～9月の合繊原料輸入は、テレフタル酸は前年同期比10.0%減となったが、エチレングリコール、カプロラクタムは増加した。

相手別繊維製品輸出 (1～9月)			繊維業界の主要指標 (1～9月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	2,215	0.0	企業数	万社	3.74	-
アジア計	972	-1.9	赤字企業数	万社	0.45	1.6
日本	169	-0.9	主要業務収入	億元	54,998	7.7
香港	103	-16.2	うち化繊産業	億元	6,472	16.3
アセアン	280	2.6	利潤総額	億元	2,798	10.3
ベトナム	104	4.3	うち化繊産業	億元	322	50.1
EU	405	-1.7	繊維産業実際投資	億元	9,589	6.5
米国	379	0.4	うち化繊産業	億元	992	18.0

社会小売財消費総額 (1～9月)				繊維関連物消費者物価指数 (1～9月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同期比 (%)
商品売上総額	億元	263,178	10.4	消費者価格指数・全製品	1.5
うち繊維品等	億元	10,534	7.2	消費者価格指数・衣類等	1.3

- ◆1～9月の相手別の繊維製品輸出は、全体で前年同期比横ばいとなった。アジア向けは同1.9%減、そのうち、日本向けは同0.9%減と続落、香港向けは同16.2%の大幅減となった。一方、アセアン向けは同2.6%増、そのうち、ベトナム向けは同4.3%増となった。欧米向けは、EU向けは同1.7%減、米国向けは同0.4%増となった。
- ◆1～9月の繊維産業の主要指標は、主要業務収入は前年同期比7.7%増、利潤総額は同10.3%増と引続き堅調であった。化繊産業は、需給バランスの改善により、主要業務収入、利潤総額はそれぞれ同16.3%増、同50.1%増と好調に推移した。繊維産業の投資は前年同期比6.5%増、そのうち化繊産業は18.0%の大幅増となった。
- ◆1～9月の衣料用内需は前年同期比7.2%増と引続き堅調に推移した。衣類等の消費者物価指数は前年同期比1.3%上昇した。

## 合繊4品種需要実績(2017年7～9月)

### I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2017年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	23,567	99.4	103.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	37,447	97.8	97.7
	計 (輸入)	61,014 (34,327)	98.4 (97.4)	99.8 (104.5)
輸出 (原糸、加工糸)		1,650	106.7	83.9
需要計		62,664	98.6	99.3
在庫		10,778	101.1	100.1

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### II. ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2017年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,129	130.0	94.6
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	33,367	89.6	92.6
	計 (輸入)	38,495 (16,202)	99.1 (97.9)	100.7 (112.0)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		1,934	112.8	66.9
需要計		40,428	99.7	98.3
在庫		14,020	107.0	66.3

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2017年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,428	94.2	98.7
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,777	101.2	95.4
	計 (輸入)	22,205 (6,969)	99.4 (108.1)	96.2 (85.2)
輸出 (原糸、加工糸)		8,729	99.5	115.7
需要計		30,934	99.4	101.0
在庫		12,347	107.2	91.2

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### IV. アクリルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2017年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	4,597	93.3	85.5
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,499	94.6	86.9
	計 (輸入)	6,096 (123)	93.6 (87.9)	85.9 (49.6)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		26,248	106.4	112.3
需要計		32,344	103.7	106.2
在庫		10,587	96.8	85.6

(注)国内需要の( )内数値は輸入量